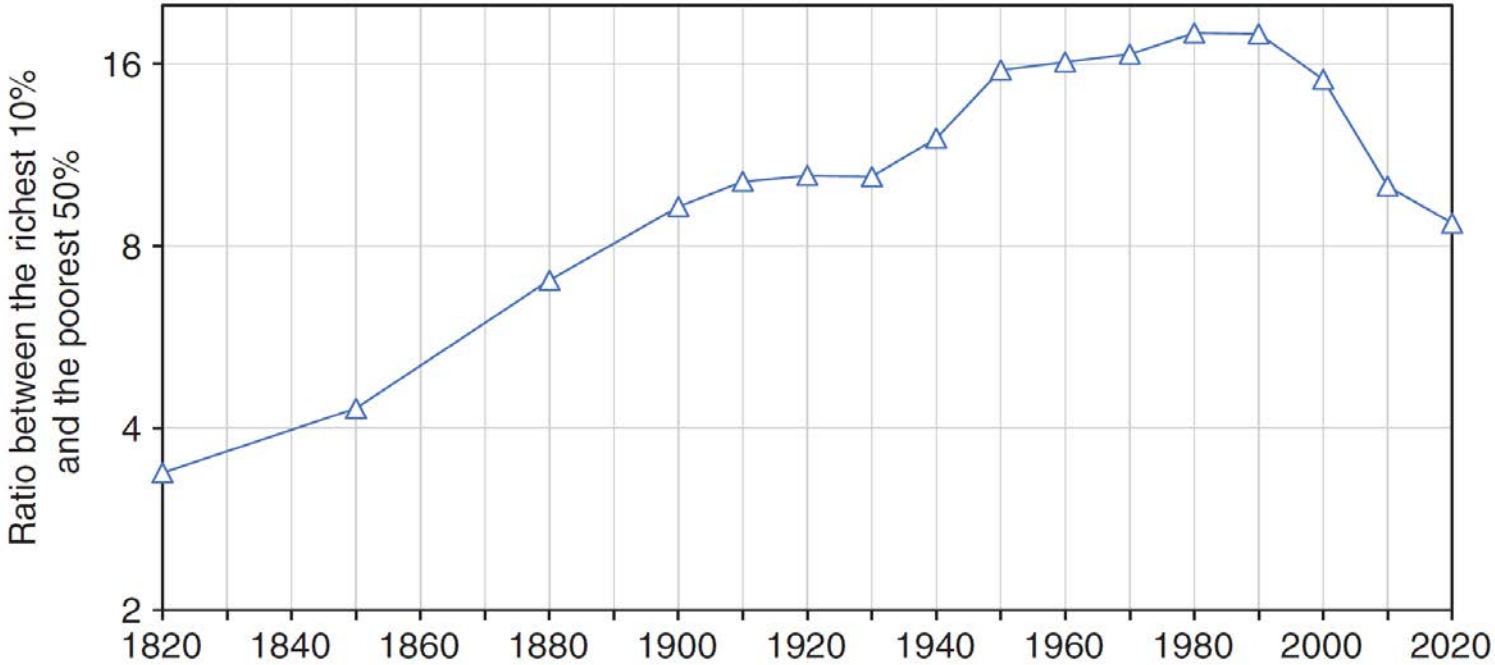
「地域研究」プログラム

社会科学の手法で「地域」の視点からグローバルな課題に取り組む

「地域研究」プログラムの目的

- 歴史と現代社会に関する専門知識と社会科学の比較分析手法を身につけ、世界各地の課題に取り組む職業人を養成



1820-2020年世界における上位10%と下位50%の平均所得の割合

Source: Piketty 2022 p.204.

地域研究とは

- 経済学を中心とする社会科学の分析手法を用い，具体的な「地域」の

—たとえば、欧州、中国、南アジア、サハラ以南アフリカ—

「貧困」「開発」「環境」といったグローバルな課題を分析する実践的な学問

比較分析とは

- 地域研究：空間の比較
- 歴史研究：時間の比較
  - 現在と同様な課題に取り組んだ過去の経験から学ぶ＝「温故知新」
- 各地、各時代の社会経済の仕組みと価値観の多様性を知り、包容力を高めながら将来社会の可能性を広げられる

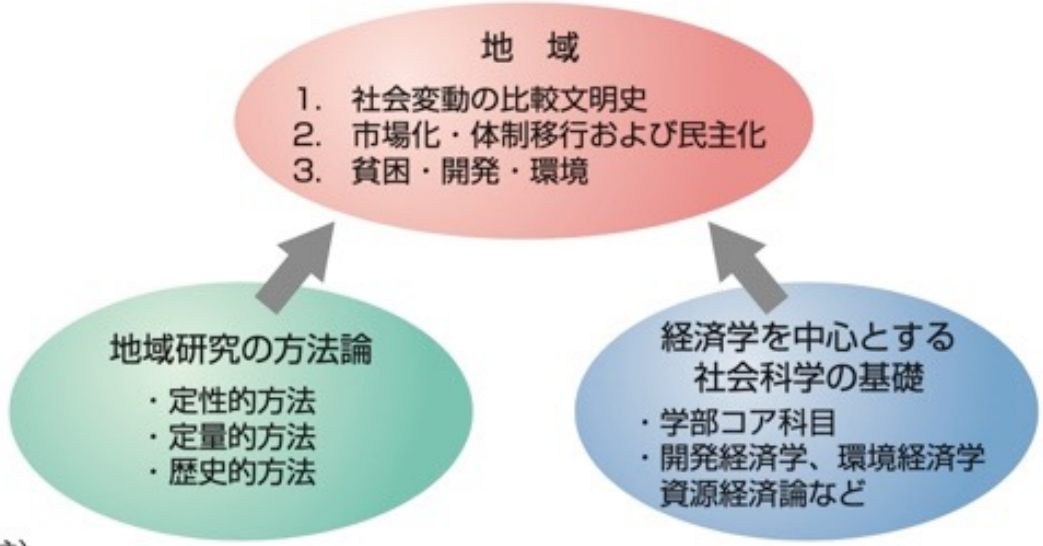
Image source: Wikimedia File:Alongtheriver QingMing.jpg (《清明上河图》, 12th c.)

経済発展のプロセスを解明する

- 人間社会はどのように発展してきたのか（経済史）
  - 経済学研究科：大月康弘、友部謙一、森宜人、ノーラット　マシュー、高柳友彦
  - 経済研究所：森口千晶
- 現在の世界はどう発展しているのか（開発経済学）
  - 経済学研究科：真野裕吉、横尾英史、黒石悠介、ニャムダワー ツォグサグ
  - 経済研究所：黒崎卓、田中万理、タンワッチャラポン メラディー、中川万理子
  - 「一橋大学大学院で開発経済学を学ぶ」https://sites.google.com/view/hitotsubashi-dev-econ

カリキュラム：分析手法と課題

図5－1　地域研究プログラムの概念図



付　表（注）

【必修科目】 大学院ゼミ（6単位）、インディペンデント・スタディ（4単位）、ワークショップ（2単位）、地域研究方法論（2単位）、経済学研究科コア科目（4単位以上）
【選択必修科目】 地域経済論A～F、現代経済史、文明史、経済史特殊問題、上級環境経済学Ⅰ、国際経済開発論Ⅰ、上級資源経済学Ⅰ、東アジア経済特論、日本経済史、東洋経済史、西洋経済史、国際経済開発論Ⅱ、上級環境経済学Ⅱ、比較経済発展論A～F、上級開発経済学A～F
【応用科目】 移行経済論、統計調査論、地域経済各論（アジア・オセオニア、アフリカ・中近東、ロシア・中東欧など）、その他の300・400・500番台講義科目

修了後の進路

潮崎　真惟子

5年一貫　地域研究プログラム
2016年度修士課程修了

私は５年一貫教育システムの地域研究プログラムに所属し、開発経済学を中心に勉強に励みました。将来、社会起業家・NGOの経営改善を通して貧困削減に貢献することを志し、コンサルティングファームに就職しました。

研究において、地域という視点で文化・歴史・地理・制度等も考慮に入れた考察をすることは、机上の空論を防ぐとともに、多角的な視野で自分から発想し新しい答えを創造することをも可能にします。また本プログラムが推奨している現地調査は、思考力・分析能力だけでなく、行動力や、時にはコミュニケーション能力も高めます。実際私の場合も、インドで６週間NGOインターンシップをした経験等が、インドの研究をする上で多くのインスピレーションを与えてくれました。

"５年間"という期間を選択したからこそ、サークル・勉学・就活全てに、思い切り、かつ効率的に打ち込むことが出来たと感じています。

１年間で修士論文を仕上げることは大変ですが、その間に重ねる努力が自分を成長させてくれます。少しでも興味があれば、是非思い切って参加することをお勧めします。

- 開発援助や海外との人的交流に関わる機関
- コンサルティングファーム、シンクタンク、ジャーナリズム
- 海外業務に重点を置く企業
- 政府、研究機関
- 進学